



SORAK Development Agency
Registered NGO, No:8726

UEB Zone, Church Road -Mullago;P.o Box, 71883 Clock Tower -Kampala;Tel:+256 703515225
Mubende Office: Lusairira T/C, 16km from Mubende Town along Mubende -Fort portal Road



NPO法人グローバルブリッジネットワーク
Global Bridge Network

プロジェクト名：生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業（ウガンダ共和国）

活動 1. 生理用布ナプキン作成と月経時の衛生管理トレーニング

（活動 1.1 生徒から生徒へ行う 月経時の衛生管理トレーニング）

日時と活動場所

2018年3月12日 ルワウナ初等学校（ナビンゴラ準郡）

2018年3月13日 聖ジョセフ・チバリンガ初等学校（チバリンガ準郡）

2018年3月14日 プレシャス・チャイルド・ラーニング・センター(PCLC)（チバリンガ準郡）

<背景>

Global Bridge Network(GBN) のサポートと、LUSH JAPAN からの資金援助を受けて、SORAK は 2017 年にパイロットプロジェクトである「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業（ウガンダ共和国）」を立ち上げた。このプロジェクトは、ムベンデ県のチバリンガ準郡及びナビンゴラ準郡のルワウナ初等学校・聖ジョセフ・チバリンガ初等学校・プレシャス・チャイルド・ラーニング・センター(PCLC) の 3 校で実施された。この活動は、上記の対象校と布ナプキン作成トレーニングを受講した生徒に効果をもたらし、その結果、2018 年第二期プロジェクトの活動資金を獲得することができた。

本レポートでは「生徒から生徒へ行う 月経時の衛生管理トレーニング」として実施した生理用布ナプキン作成トレーニング活動について報告する。今回は合計 18 名の生徒（女子 12 名と男子 6 名、内女子 4 名と男子 2 名は第一期プロジェクトに参加）が、布ナプキン作成方法を学ぶために各対象校から選ばれた。

前回のプロジェクトに参加経験のある生徒は、さらに他の生徒にトレーニングを行う方法についてのスキルを身に着けた。今回選ばれたメンバーはそれぞれの学校の生徒 120 名（女子 90 名、男子 30 名）へ、月経時の衛生管理について指導できるようトレーニングを受けた。

このトレーニングは、生徒の保護者、男性及び女性の主任教員、さらには SORAK Development Agency からのサポートを受けて行われた。

<トレーニングの目的>

トレーニングの目的は、月経時の衛生管理について包括的な知識を身に付け、布ナプキンの作成方法を学んでもらうことである。今回は、仲間の生徒へ布ナプキン作成方法を指導するトレーナーの役割を担う生徒に向けたトレーニングを行った。このような Child-to-Child アプローチ（子ども達が自

ら身に着けた知識や技術を、同様の環境にいる子ども達にも伝授していくこと。)をとることで、今後も自分たちで主体的にプロジェクトを維持できるような持続可能性を確保していく。

<ファシリテーター>

1. Nnakiruuta Hadijah : SORAK Development Agency プログラムマネージャー
2. Nakanwagi Judith : ルワウナ初等学校 女性主任教員
3. Nababi Maliat : ルワウナ初等学校へ通う生徒の親、裁縫を職業とする
4. Najjuko Jane : プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センター(PCLC) 女性主任教員
5. Namyalo Maria Gorretti : 布ナプキン作成ボランティア
6. Nandawula Adia : 聖ジョセフ・チバリング初等学校 女性主任教員

<トレーニングで扱ったテーマ>

- 月経に関する一般的な知識
- 月経の周期サイクル
- 月経の兆候・症状/特徴
- 生理痛や他症状と、生理痛を改善する自然療法
- 月経時の衛生管理
- 再利用可能な生理用布ナプキンの作成

<活動内容>



左：プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センター(PCLC) の Ssemata Ponsiano さんが月経時の衛生管理について発表している様子。

右：Kembabazi Sara さんが黒板を使い、月経の周期サイクルを数えるコツを説明。



左：プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センター(PCLC) の Ziwa Ronald さんと Nansukusa Rosemary さんが布ナプキン作成を指導。



左：布ナプキン作成ボランティアと聖ジョセフ・チバリンガ初等学校の思春期（生理を迎える年齢）の女子で、布ナプキンの採寸。



左：中央の Kesande Jesca さん（プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センター(PCLC)）が布ナプキンの使い方を教えている。



左：手作りしたナプキンを手を持つルワウナ初等学校の生徒達。今後は彼らが他の生徒に月経時の衛生管理トレーニングを行う。

右：聖ジョセフ・チバリング初等学校の生徒が作成した布ナプキン。

<トレーニングの成果>

- 全員の生徒 18 名（女子 12 名と男子 6 名）が、それぞれ 2 つずつ布ナプキンを作成することができた。
- 生徒達は月経にまつわる神話・症状や周期、またそれにどう対応すればいいのか、その概要について自信を持って（生理について言及するのはタブーという慣習があるが）自由に説明することができるようになった。
- 参加者は、使用済みナプキンの適切な破棄方法、洗い方と乾かし方、同じナプキンを 12 時間以上使用しないことなど、月経時の適切な衛生管理方法を説明することができるようになった。

<課題と対処法>

- 2017 年の第一期にトレーニングを受けた生徒の中には、転校をしてしまった子どもがいた。第一期の参加者で学校に残っていたのは、ルワウナ初等学校に 1 人、聖ジョセフ・チバリング初等学校に 3 人、プレシャス・チャイルド・ラーニング・センター(PCLC) に 2 人のみであった。そこで SORAK は、女性及び男性の主任教員の助けを借りて、その空席を埋められる様な活動に熱心な生徒を新たに選抜した。2017 年に参加経験のあるメンバーがナプキン作成をリードして、新規の参加者はその工程について熱心にメモをとり、最終的にトレーニングが終わる頃には新規参加の子ども達も布ナプキンを作ることができた。
- 2017 年のプロジェクトの際に聖ジョセフ・チバリング初等学校を代表して参加していた生徒の親で、裁縫を職業として働いていた人が、現在はウガンダ西部のキバレ県に引っ越していた。そのため、今回のナプキン作成の作業の際には、ミシンを SORAK の事務所から貸し出し聖ジョセフ・チバリング初等学校に運び込んだ。

- ルワウナ初等学校と聖ジョセフ・チバリング初等学校では電力供給が不足していた。そのためナプキンのがかり縫いを施す電気式のミシンは学校では使えず、布ナプキンを一度 SORAK 事務所に持ち帰り、がかり縫いを完了させてから再度学校へ戻すことで対応した。

<提案>

- 生徒達は今回のトレーニングで学んだ情報を、Child-to-Child アプローチをもって、他の子ども達へ確実に共有していかなければならない。また学校関係者は、生徒達がナプキン作成トレーニングを含む月経時の衛生管理の方法について他の生徒たちに教え合えるように、週に最低2時間を確保すべきと考える。
- 生徒の保護者と教員も、今回生徒達が学んだ布ナプキン作成の技術が持続するよう、また情報が確実に共有されるように協力する必要がある。生徒の保護者と教員は、常に生徒を導き、必要に応じて適切な情報提供を行うべきである。
- ナビンゴラ準郡とチバリング準郡においては、技術指導者並びに政策立案者、さらには県全体でこのプロジェクトへのサポートを約束するべきだ。技術者や政治リーダーからの支援があれば、プロジェクトの促進、布ナプキンの需要の喚起・使用をより推進できると考える。

<おわりに>

GBN 様、LUSH 様のご支援に心から感謝する。今後も共にこのプロジェクトを実施し、思春期女子の月経時の衛生管理の改善、さらには女子の学業の質の向上を実現していく。